

## 新会長に小林 貞夫氏!! 新執行部決定

平成25～26年度の協会役員選考状況は、前号でお知らせした通り、選挙管理特別委員会(委員長 阿部克己氏)が設置され、12名の正会員理事候補者が運営会議、理事会を経て内定していました。また、正会員外の8名の理事についても選定され、総会での承認を待つ状況になっていました。ただ残念だったのは、前会長の森村 潔氏は、会長職は出来るだけ多くの方に就任してもらいたいで2期までが良いとする、就任時からの持論で、辞任されたことです。さらに当協会以外の協会の要職を数多く務められ、多忙を極めることから理事就任も固辞されました。思えば設備設計にとっては厳しく、難しい時期だった2期3年間、会長職の重責を担っていただき、新法人に向けた改革、その他の数々の業績を残していただいたことに感謝申し上げます。

このような状況の中、第2回定時総会が開催され、それぞれの理事は異議なく承認されました。この承認を受け直ちに新理事より、互選で会長をはじめ新執行部を決定する理事会を開催しました。その結果、会長に小林貞夫氏、副会長に市村 充氏、小松 博氏を選出しました。また専務理事は安住 正氏が継続して担当することが決められました。新執行部の陣容は次の通りです。(敬称略)

会長	小林 貞夫(株式会社総合設備計画 代表取締役社長)
副会長	市村 充(株式会社総合設備コンサルタント 代表取締役社長)
副会長	小松 博(株式会社蒼設備設計 代表取締役社長)
専務理事	安住 正
(以下五十音順)	
正会員理事	泉 祐三(株式会社ユニ設備設計 代表取締役)
正会員理事	須貝 靖彦(株式会社空間設備コンサルタント 代表取締役)
正会員理事	高倉 京一(株式会社泉設備設計 代表取締役)
正会員理事	武井 一義(株式会社ピーエーシー 代表取締役)
正会員理事	知久 昭夫(有限会社知久設備計画研究所 取締役社長)
正会員理事	中村 滋宏(株式会社設備計画 代表取締役)
正会員理事	南雲 繁人(株式会社ナグモ設備設計事務所 代表取締役)
正会員理事	望月 温(株式会社日本設備企画 代表取締役)
正会員理事	吉本 健二(株式会社明野設備研究所 副代表取締役)
正会員外理事	大倉 伸二(東京ガス株式会社 都市エネルギー事業部 法人営業一部 課長)
正会員外理事	奥村 克夫(芝浦工業大学 名誉教授)
正会員外理事	加藤 浩(東西化学産業株式会社 ソリューション営業本部 顧問)
正会員外理事	篠原 正敏(株式会社朝日工業社 設計統括部 参与)
正会員外理事	高宮 恒一(株式会社関電工 営業統括本部 部長)
正会員外理事	三舟 敏夫(三建設備工業株式会社 執行役員)
正会員外理事	宮野尾雄司(株式会社荏原製作所 国内事業統括 東京支社長)
監事	海野 法雄(株式会社偕設計 代表取締役)
監事	田中 清久(株式会社エム・イー・ケー設計 代表取締役)

新会長に選出された小林貞夫氏は、就任挨拶で、3年前、各種協会で重要な役務を担われ多忙だった森村前会長に無理を言って会長職を引き受けてもらった経緯を述べるとともに、この間、新法人改革のためご尽力いただき、「無事に一般社団法人への移行ができたこと」、「国土交通省関東地方整備局との意見交換会への道を切り開いてもらったこと」などについて感謝の意を表しました。その上で、今後の協会会長としての抱負として、当協会は東京都にある協会という特性を持っている。「東京という特性を生かし面白いことをしよう!!」「東京にしかないビジネスチャンス、海外との仕事、東京に居ればこそそのコンサルタントの仕事も出てくる」と、他の地区にはない首都として情報が集まる東京の地の利を生かしたビジネスの可能性をアピールしました。また、昨今の厳しい経済環境で会員数減少が続いてことから、「会員数の減少に歯止めをかけ、会員増強に向け努力していく」と力強く所信を表明しました。当協会は、会長が新たに選ばれたことをはじめ、正会員理事は10人から12人と増えたことで新たな顔が見られ平均年齢も若返りました。世の中は政・財・官・学界などで世代交代が言われていますが、当協会も新時代を迎えていることが実感されます。

## 委員会の報告

4月19日発行の「協会だより49号」以降の各委員会では、次のような活動、審議、報告を行いました。

### <総務委員会>

1. 平成25～26年度役員(理事・監事)選考について
2. 第2回定時総会の実施について
3. 平成25年度の事業計画案と収支予算案について
4. 平成25年度の収支・執行状況について

### <業務環境改善委員会>

1. オープンデスク制度について
2. 建築設備賠償責任保険について
3. 消防設備士試験準備講習会の実施
4. 賛助会員企業見学会について

### <環境・技術委員会>

1. 平成25年度の計画・検討

### <事業委員会>

1. スカイツリー地域冷暖房見学会について
2. 平成25年度の計画・検討

### <広報・情報委員会>

1. 会誌MET17号の検討について
2. 協会だより50号への情報収集
3. ホームページの情報更新

### <賛助会>

1. 協会の最近の動きについて
2. 次期賛助会運営委員会の体制について
3. 賛助会総会の実施

### ●第2回定時総会と賛助会総会開催●

当協会は5月29日、一般社団法人と認定されたから第2回となる定時総会を飯田橋のインテリジェントロビー・ルコで開催しました。第1回となった昨年の総会は、旧社団法人時代の平成23年度の決算承認と同時に、新法人移行後の平成24年度の予算の承認を求めたものでした。今年度の総会は、第一部の定時総会での司会は高倉理事が担当し開催されました。森村前会長は開会挨拶で、前年度に一般社団法人への移行が無事に済んだことと、これに伴い総会は年1回となったことを説明。その後、恒例により会長を議長に選任。定数確認では正会員数73者の内、出席会員19者、委任状出席36者の計55者となっていることから、定款に定める会員の2分の1以上を満たし、総会成立を確認しました。第1号議案「平成24年度事業報告承認の件」は市村前副会長から、第2号議案「平成24年度収支報告承認の件、監査報告の件」は小林前副会長から説明され、特段の質問もなく承認されました。引き続き小林前副会長

から「平成25年度事業計画及び収支予算報告の件」の説明がされ、満場一致で可決承認されました。第4号議案の「次期役員承認の件」については、旧社団法人時代に選出された理事の方達の任期が、今年度総会時には新定款で定める2年以内を超えてしまうことから、昨年度末、役員選出が行われたことが、阿部選挙管理特別委員会委員長から報告されました。本定時総会では新理事を承認するとともに新執行部を決定することが大きなテーマでしたが、詳細は上記の囲み記事の通り承認、決定されています。休憩を挟んで、第二部の「第2回賛助会総会」が加藤賛助会運営委員会事務局長の司会で開催。高橋文雄賛助会運営委員長は「昨年、東京ガスの近藤委員長が組織移動で退任したため1年間だけの約束で委員長を引き受けたが、賛助会総会の審議をよりしくお願いしたい」としました。第1号議案「平成24年度活動報告(案)の件」は三舟副委員長から、第2号議案「平成25年度活動方針(案)の件」第3号議案「賛助会規定の制定の件」は大倉副委員長から説明され、それぞれ満場一致で

承認されました。その後、第4号議案「平成25年賛助会運営委員会体制(案)の件」が説明され、前期から継続しての高橋委員長、大倉、三舟の両副委員長、並びに委員を承認。この後、出席委員による挨拶がありました。第三部の「会員交流会」は南雲新理事が司会を担当しスタートしました。小林新会長は挨拶で、「東京の地域特性を生かし活動しよう!!」と力強く協会を引っ張っていく抱負を語りました。その後、高橋賛助会運営委員長の乾杯の音頭で祝宴に入りました。あちこちで盃を酌み交わす楽しい一時でしたが、何時しか時間が過ぎ、中締め時間を迎え、市村副会長の三、三、七拍子の元気の出る手締めでお開きになりました。

### ●平成25年度 建築設備技術遺産を認定●

(一社)建築設備技術者協会は、建築設備の「技術」「役割」「文化」を次世代に伝えるとともに、多くの方に広めていくことを目的とする「建築設備技術遺産」を昨年度創出し、5件が認定されました。本年度も引き続きの募集に対し、11件の応募があり、その中から下記の5件を新たに遺産認定に加えしました。

- 第6号 旧京都電燈株式会社本社屋の地下水熱源ヒートポンプ空調システム
  - 第7号 国立代々木競技場 大空間換気(空調)設備
  - 第8号 日本初のロータリーコンプレッサーを搭載したウインドクーラー及びビル用マルチエアコン
  - 第9号 1920年製作の丸の内ビルディングの接地板
  - 第10号 不凍水抜き栓
- 技術的内容につきましては同協会ホームページ<http://www.jabmee.or.jp/>をご覧ください。

### ●「建築設備士」詐称2件発覚●

昨年、一級建築士の偽装免許の写しを用いた詐称事件が相当数見つかり、一般新聞にも取り上げられ話題になりました。[「建築設備士」にも発生していたことが判りました。(一社)建築設備技術者協会は平成12年度に2件の「建築設備士登録証偽造」があったと発表。12年7月に三重県で、10月には和歌山県で、建築士事務所が建築工事の監理補助業務を委託する際に、同協会に登録有無の照会があり発覚しました。同協会は「建築設備士の活用を強く要望している中で詐称発覚は非常に残念であり誠に遺憾」とし、再発防止策として、「建築設備士登録証原本または顔写真付きカードによる確認推奨」「登録簿閲覧制度によって登録の照会・確認ができる」ことをホームページや機関誌を通じ周知するとしています。

### ●「新たな危険領域に入った」CO<sub>2</sub>濃度で声明●

読売新聞(5月13日)によれば「ハワイ島の観測所でCO<sub>2</sub>の平均濃度が400PPMを超えたのを受け、国連気象変動枠組条約事務局局長は「我々は歴史的な限界を越え、新たな危険領域に入った」と声明を発表した。声明では「世界は目をさまし、これが人類の安全保障や福祉、経済発展にどのような影響を及ぼすか気づかぬばならない」と警告している」と世界で最初にCO<sub>2</sub>の高濃度化を発見したマウナロア観測所での結果を発表しました。

### ●太陽光パネルにごみ問題 不正処理で汚染懸念●

日本経済新聞(5月24日)によれば「環境に優しいエネルギーの筆頭格である太陽光発電を巡りごみ問題が浮上してきた。再生可能エネの固定価格買取制度を受け、太陽光発電の導入は飛躍的に進んでいる。太陽光パネルの耐用年数は20～25年と長く、廃棄物の量は足元で見ると少ないが、2年先の15年には7万～9万トンが使用済みとなる見込みだ。数年先から加速度的に増え、30年には年間25万～70万トンが使用済みとして排出される見通し。環境省は処分やリサイクルについて「今のうちにルールを明確にしておかないと、大量廃棄時代に適応できない」と危機感を募らせる。特に問題になるのは太陽光パネルの内部にある人体に害を及ぼす鉛、カドミウムなどの重金属の流出だ。使用済みパネルを処分する際、こうした金属類を適切に分別できなければ、微量であっても雨や地下水など自然界に溶け出す可能性が高く、長い年月をかけて体内や環境内に蓄積される懸念が浮上している」と環境に優しくなったはずの再生可能エネがもたらす新たな課題を伝えています。

### ●消防設備士受験準備講習会(甲種第1類)報告●

今年も6月5日、消防設備士(甲種第1類)の資格取得に向けた受験準備講習会が協会会議室で開催されました。本年は8月6日と間近に迫った試験日を睨み丸一日、真剣に受講する姿が見られました。なお、今年の講師はニッタン株式会社の窪寺真孝氏が担当されました。

### ●号外版の予定●

今年も節電の夏を迎え、原発が長期停止を余儀なくされている中で新たな節電のためのエネルギー対応や各種の環境に伴う新技術が注目を浴びるようになりました。そこで、「環境とエネルギー特集」として、この関連のニュースを取り上げ、7月に号外版を発行する予定です。